

学校教育目標	可能性への挑戦 ～これからの社会に必要なとされる資質・能力の育成を目指して～
--------	--

a ミッション	地域に信頼され、地域に誇れる学校をつくる	a ビジョン	○生徒が安心して学べる学校 ○生徒、保護者、教職員が誇りに思い、地域から信頼される学校
---------	----------------------	--------	--

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
志高く挑戦し続ける生徒の育成 多様性を尊重し、かかわり合える生徒の育成 失敗を恐れぬ元気をもち生徒の育成 新しい発見から学びを深められる生徒の育成 ↓ 主体性・表現力	豊かな人間性の育成 スクールプライドの育成 小中連携の推進	○「実態把握」「寄り添い」「スピード」を意識した生徒指導の充実 ★生徒が考える場を充実し、自己指導力の育成 ↓ 生活リズムの確立 自己肯定感の向上 不登校生徒の減少	①就寝時間が同じくらいであると答える生徒の割合 ②自分にはよいところがあるといえる生徒の割合 ③学校が楽しいと答える生徒の割合	①85% ②80% ③80%	①69% ②64% ③76%	①80% ②74% ③84%	①94.1 ②92.5 ③105.0	B	① 平均80%という結果であり、特に3年生は前回の63%から78%と、15ポイント上昇した。保健委員会の呼びかけや生活振り返りカードの取組等による成果であると考えられる。 ② 自分にはよいところがあるという質問の肯定的回答の割合は、3年生88%、2年生72%、1年生66%と、すべての学年で前回より上昇し、特に2・3年生は前回比16ポイント上昇した。引き続き普段の授業や学校行事等で活躍できる場面をつくっていきながら、自己肯定感の向上を図っていく。 ③ すべての学年で前回より上昇し、目標値を達成した。特に3年生は92%で、前回比16ポイント上昇した。また、前は「まったく当てはまらない」と回答した生徒が9%いたが、今回は4%に減少した。引き続き生徒理解に努め、生徒一人一人が楽しいと思える学校づくりに取り組む。	○	○	○	・小中連携をより一層推進し、自己肯定感の向上につなげていってほしいと思います。 ・行事等を通して自信をつけ、活躍できる場を増やしていけるよう引き続き取り組んでいただきたいと思います。 ・学校が楽しいと答える生徒が目標値に達しているため、引き続き生徒理解に努めていただき、一人一人が楽しいと思える学校づくりに取り組んでいただきたいと思います。 ・学校が楽しいと思えることは中学校生活を送る上で最も重要だと思えます。達成度105%は評価できる。 ・不登校の問題は向島だけでなく、尾道市全体の問題であることを新聞でも目にしました。単独では難しい問題だと思えますので、市全体の取組プラスでよい方向に進めばと思います。	・委員会活動を中心とした生徒主体の活動の充実に引き続き取り組み、生活リズムの確立を図る。 ・普段の授業や学校行事等で生徒一人一人が活躍できる場面を意図的・積極的に設定し、肯定的評価を行う中で自分のよいところに目を向けさせることを通じて自己肯定感の向上を図る。 ・丁寧な実態把握と教室以外の居場所の整備に引き続き取り組み、不登校生徒の減少を図る。 ・併せて、日々の声かけや面談を通して生徒理解を深め、生徒一人一人が楽しいと思える学校づくりに取り組む。 ・小中連携の充実を図りながら、学区の児童生徒の学習面や生活面における課題を共有し、課題解決のための具体的な取組につなげる。
		○生徒指導の三機能を生かした授業改善 ★主体性・表現力の育成 「問い」の6段階の工夫 ↓ 表現の工夫 ↓ 評価（見とり）の工夫	①タブレットや大型提示装置等を活用し、授業において「問い」の6段階や「表現」を工夫していると答える教職員の割合 ②授業において自分の考えを相手に分かりやすく伝えるよう工夫している生徒の割合 ③各種学力テストで全国平均を上回る	①90% ②80% ③70%	①75% ②76% ③33.3%	①100% ②80% ③76.9%	①111.1 ②100.0 ③109.8	A	① 15人/15人 授業におけるICTの活用はスムーズに進んでいる。2月に実施予定の本年度最後の校内授業研を通して、より一層理解を深めていきたい。 ② 肯定的回答の割合は、3年生87%、2年生83%、1年生74%であり、前回から3年生は11ポイント、2年生は3ポイント上昇、1年生は増減なしであった。 ③ 1月に実施した標準学力調査の結果 1年（5/5）国・社・数・理・英 2年（5/5）国・社・数・理・英 3年（0/3） 【4月】4/12（33.3%）	○	○	○	・若い先生方のよさや強みを生かした、タブレット等を活用した授業や家庭学習で、子供たちの学びうとする意欲を高めたいと思えます。 ・自分の考えを相手に分かりやすく伝える工夫をしている生徒の割合が目標値に達しているため、引き続き生徒を肯定的に取り上げながら、持っている力を引き出す授業をしていただきたいと思います。 ・学力については小学校と中学校が連携をとって進めていっていただきたいと思います。 ・学力向上については小学校との連携が必要になると思います。ぜひこれから力を入れていただきたいと思います。 ・限られた時間ではありますが、少しずつも生徒の力の底上げを図ってください。	・次年度は「表現」の部分をより意識した授業改善に学校全体で取り組みながら、教育研究の充実を図る。 ・自分の考えを相手に伝える工夫をしている生徒を引き続き授業の中で肯定的に取り上げながら、生徒の意識や学力の向上を図る。 ・各種学力テストの結果分析を学校全体で行い、日々の授業改善に生かすとともに、小中連携の充実を図りながら中学校区としての課題について協議し、具体的な取組につなげる。 ・各教科でeライブラリ等を効果的に活用し、学力の定着を図る。
	○働き方改革による組織的な運営と人材育成 ★教育の質を高める働き方改革の推進 ↓ 子どもと向き合う時間の確保	①生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教師の割合 ②タイムマネジメント、効率的な仕事の進捗に努力していると答える教師の割合 ③主体的に学んだことを講師として還元することのできる教師の割合	①90% ②90% ③100%	①77.8% ②100% ③45%	①75% ②100% ③100%	①83.3 ②111.1 ③100.0	B	① 肯定的回答の割合は75%であり、市中学校平均比で-20ポイント、達成度は83.3%にとどまった。今後も業務を一層精査し、生徒と向き合う時間の確保に努める必要がある。 ② すべての職員が意識をもって取り組んでおり、今回も目標値を達成することができた。今後も働き方改革を更に推進していきながら、教育の質の向上に取り組む。 ③ 校内研修等で職員が研修の還元や自己表現をする場を設定し、職員間の同僚性や表現力の向上に努めた。今後も引き続き取組を進めていく。	○	○	○	・目指す生徒像・教師像を年度初めに共有し、学校教育目標の達成を図るための重点取組と業績評価を関連付ける。 ・「生徒と向き合う時間」が確保されているという実感を教職員一人一人がもちこたうことができるよう、引き続き日々の業務を精査しながら、教育の質を高める働き方改革を更に推進する。 ・退校時刻を意識しながら見直しをもって業務を遂行し、役割分担の明確化と効率化に引き続き取り組むことで、時間外勤務時間の更なる縮減を図る。 ・職員が研修の還元や自己表現を行うことができる場を引き続き校内研修等で設定し、同僚性や表現力の更なる向上に努める。		

【自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80

B: 80≦(ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。